

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

2016(28)年 週 報

10月30日

「現代の奴隷と主人」

第5聖日

第3479号

聖
言

奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上に主人に従いなさい。エペソ6:5

主の弟子となる^②

第三課 基本原則 鍵となる引用を読んで考えましょう
「通常、私たちはキリストの教えを信じていることが信仰だと考え、新約聖書が強調しているクリスチャンとしての生き方全般にわたる教えの主要部分を見逃してしまっています。イエスは宣教の中心を（例えば、山上の説教や最後の晩餐での説教のように）神がどのように人々が生きることを臨んでおられるかを弟子たちにおしえること、と考えておられました。使徒や初代教会の指導者たちの牧会の働きの中心は、この教えを伝え解き明かすことでした。聖霊の導きのもと、新約聖書の著者はこの教えをすべての時代の教会に伝えていくのです。パウロがローマ人への手紙の中で「神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従しています」と述べている（六ノ一七、参照コテモ一ノ一三、二ノ二）のように、この教えは、クリスチャン生活の健全さを測る基準です。このような日常生活に係わる教えの中心は、キリストが来られたのは私たちが神御自身の性質のあずかる者とされるため（コペテロ一ノ一四）、またキリストに似た者とされるため（マタイ五ノ四八、一ヨハネ三ノ二）、あるという理解です。
(CIBTE主の弟子より)

祈りのお願

教会の後継者が与えられるように

神学生があたえられるように

一つ心になって互いに従順に神と人々に仕えるように

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

「親の子に対する勧め」

「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。エペソ6:4

創造主である神のイメージをもたない日本の両親の中に、子どもはいったい何を見出すだろうか。現在、社会問題になっている家庭内暴力や校内暴力は、まさに、神のイメージをもたない両親と子どもの関係を如実に表している。親と子の正しい関係が見失われ、親の権威は地に落ちているのである。これは、封建制度の反動であるとも言えるかもしれないが、神を否定する社会の当然の帰結であるともいえよう。しかし、単に石に生まれた者だから従えとか、親は子を養育しているのだから従えなどと言っても、服従の根拠にはならない。まして、親が正しい行いをせずに子どもだけに要求するのは無理である。アメリカの高校生が、両親と自分の関係は、単なる経済関係ではない、扶養の義務があるだけだと言いつつ聞いているのと同じことであるが、何と寂しいことだろうか。両親も子も者、共に神に帰らなければならぬ。神のもとにあつてこそ、私たちは正しい家庭関係を築くことができるのである。主にあつて両親に従う時、神はこれを喜び、祝福してくださるのである。両親が神を信じていない場合は、この祝福に入ることができないように両親のために祈り、積極的に証しするべきである。もし両親がキリストに従うことを妨害するならば、この戒めに拘束されることはない。神に従うことを妨げることはだれにもできないからである。両親であるゆえに他の面では敬つても、信仰に対する反対を受けた場合は、よく祈って自分の信仰を貫くために証しすべきである。子を思う親ならば、いつか必ず理解してくれるはずである。神の家族の「父たち」に対しては、子どもは

「主の教育と訓戒によって育てなさい」(6:4)と命じられている。ここでは親を代表して父に呼びかけられている。親は神の啓示を伝える器であることを自覚して、「主の教育と訓戒」を持って子どもの育成に当たるのである。親は子供を自分の所有物とみなすべきでない。子どもは神から委託された人格なのだから、主の啓示されたしつけと戒めに従って育てなければならぬ。「子供をおこらせてはいけません」(6:4)。子供を怒らせるのはどういう場合だろうか。まず、物事を正しく認識せず、自分の感情で判断して子供を叱る場合が考えられる。自分自身が守っていない規準を子どもに要求する場合もそうであろう。また、人格を無視して、自分の願望を子どもによって達成しようとしていることが明らかな場合も、子どもを怒らせる原因になるだろう。子どもの教育は「主の教育と訓戒」によるものであつて、親自身もその対象なのである。自分も共に神のことばの真理にちかづく生活を築くところに、真の教育がある。また、子どもは自分自身の願望の達成のために存在するものなどと考えべきでない。それは子どもの生涯を親が勝手に決めてしまうことであつて、神の栄光を表すことにはならない。親たる者は、主の栄光を表す教育ができるように常に祈りつつ子どもに接するのでなければならぬ。

二〇一六年一〇月二六日午後六時半 祈祷会 山本稔牧師
「主に立ち返る」ホセア六章

「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。」(ホセア六ノ一)

1~3節 喜びの子 イスラエルが神に応答する悔い改めの歌ですが、ホセアは自分の民を同一視して「私たち」と呼んでいます。獅子のように怒りを燃やした主はエフライムとユダを引

き裂きました。しかし、主がその傷を癒してくださいました。

教会創立六八周年記念会

「あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」(マタイ16:18)

この御言葉は主イエス様がペテロに語られました。しかし、現代のペテロの教会はまことに不安定です。嵐に揺れ動きながらも教会は六八年を迎えることができました。ハデス(黄泉)の門を打ち破り、人生の目的を失った方を福音により新生させ、福音の喜びを証しする神のリバイバルが起きる教会の実現のために共に感謝と証の時を持ちましょう。

記

日時 一月三日(木)午前10時

場所 教会礼拝堂

内容 歴代牧師、聖徒の思いでを語る

基調講演 岡山聖成キリスト教会牧師 足達和章先生

説教題 「新たな力を得ん」 イザヤ40:31

一月教団、教会行事

三日(木) 教団創立六八周年記念会午前10時 午後牧師会

五日(土) NPO未来のバトン理事會 午後二時

神戸フィラデルフィヤ教会

六日(日) 礼拝後役員会

一〇日(木) 納骨堂掃除 午前10時

一四日(月) 神戸宣教祈禱会午後一時半東灘BP教会

一六日(水) 岡花位次兄納骨式 午前10時 納骨堂

二二日(火) IT講習会 クラウンパレス 午後三時

祈禱会 午後六時半

一三日(水) 名古屋訪問

二五日(金) 大日丘集会 午後五時

二七日(日) オープン礼拝

神戸フィラデルフィヤ教会 大嶋善直牧師

クリスマス献金約束日

二八日(月) 説教塾 午前11時 神港教会

基督教連合会 午後一時 神戸聖ミカエル教会

二九日(火) 教会リバイバル兵庫協力会 午後一時

神戸東部教会

一月の召天会員

二日 木元愛子姉 二八周年

三日 大藤武士兄 五一周年

五日 水間哉則兄 七三周年

六日 水間ハル姉 七一周年

九日 河田琢次兄 二〇周年

一〇日 網本艶の姉 四九周年

二二日 濱田俊輔兄 五六周年

二四日 白数花寿姉 三七周年

※ 召天会員の遺族の方は納骨堂周辺の掃除をお願いします。

今年のクリスマス予定

一二月一八日(日) 午前11時 クリスマス賛美礼拝

午後 一時 クリスマスコンサート

賛美 水野夏子さん 話し 山本稔

一二月二四日(土) 午後二時 大日丘子どもクリスマス

一二月二五日(日) 午前10時 クリスマス礼拝